



お江戸舟遊び瓦版 345号

水彩都市江東　　こころ美しい日本の再生　　安全・安心まちづくり
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会　　江東区千田 13-10

伝統の江戸東京野菜講座

日時：2015年5月14日

所：江東区第五砂町小学校、中川船番所資料館他

主催：江東区砂町文化センター

http://www.kcf.or.jp/sunamachi/kouza_detail_0107005/

2011年に、JA東京が商標登録をし、年々登録野菜が増えている『江戸東京野菜』。既に登録されている『亀戸大根』『砂村一本ねぎ』『砂村三寸にんじん』のほか、今後登録が期待される『中川そら豆』など江東区にゆかりの野菜がいくつかある。それをより身近に感じられるよう、『伝統の江戸東京野菜』講座が開講されました。



昭和30年代に広がっていた砂村ネギ畑看板

初日は、砂町第五小学校で取り組まれている地場産物の活用『砂村一本ねぎの取組』について、銭元真規江菜養教諭から熱いお話を頂きました。8月末、江戸東京・伝統野菜の伝道師大竹道茂先生から地元の農業の歴史のお話を聞き、前年度取り組んだ5年生から4年生への「種の受け渡し」と植ええから始まります。9月には芽が出、10月にはプランターから畑に移し、12月には第1回の土寄せ、3月に2回の土寄せを行い、4月に収穫し、給食で頂きます。その長い期間、子供たちは生き物の成長を身近に見守ることになり、大変貴重な生命の神秘の体験となり、教育効果抜群です。

その後、成長した砂村一本ねぎの学校畑を見学し、昔のネギ畑が広がっていた砂村の町を歩き、中川船番所資料館に移動し、江東区の農業の歴史の解説とそら豆の解説を久染氏から頂きました。



種の受け渡し式



一回目の土寄せ



砂村一本ねぎの学校畑



中川船番所資料館と水陸両用バス



久染先生と大竹先生



大きく育ったそら豆の実り

新砂干潟クリーンアップ作戦&自然観察会

日時：5月15日 10時～15時

所：荒川河口 新砂干潟

主催：江東エコリーダーの会

- ・今年の春の新砂干潟クリーンアップ作戦&自然観察会が行われました。今回の干潮は今までで最も引いた干潟でした。
- ・まず、野鳥の観察が行われ、カワウ、アオサギ、コサギ、ダイサギ、チュウシャクシギ、キョウジョシギ等16種が観察しました。

その後、海浜部のクリーン作戦を行い、ゴミ袋にたくさんのプラスチック容器などの漂着ゴミや粗大ごみを収集しました。昨年の夏に比較し少し少なくなった感がありました。

最後に、植物調査を行いました。海浜部の植生は緑いっぱい、ハマダイコンが咲くとともに、大きな実りとなっていました。干潟にはカニが(元気いっぱい)活発に動いていました。



まずは野鳥の観察から



干潟はカニがいっぱい



キョウジョシギ



チュウシャクシギ



カワウとコサギ



クリーン作戦



海浜部の植物調査



花咲くハマダイコン



ゴミ袋にいっぱいのゴミ

所感：「伝統の江戸東京野菜講座」に参加した。地場産物復活・活用を目指して、小学校あげて江戸時代から昭和30年代まで続いていた江戸近郊野菜に取り組みされていることに胸が熱くなった。新砂干潟クリーンナップとともに、地元の生物多様性保全に努めていきたい。(文責 中瀬)